

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	その他	授業の方法	演 習
科 目 名	プレゼンテーション演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	片桐 伸将	実務経験とその関連資格	博士(工学), 職業訓練指導員免許(メカトロニクス等), 10年以上国立循環器病研究センター研究所にて医療機器の研究開発および1～5回/年程度の国内外学会発表			
《授業科目における学習内容》						
医工学・安全管理から題材を選び、臨床工学の観点から研究に取り組む。研究課題を見つけることで、問題発見力、自発的行動力を身につける。研究課題に取り組むことで、問題解決能力を養うと同時に、キャリア教育としての人間力の育成を行う。チームとして取り組むことで、チームとして活動するための、リーダーシップ、協調性などを養う。研究の根幹である倫理観、学術的規範、研究手法を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度: 10 % 参加度 : 20 % 作成した発表資料、発表に纏わるマナー、発表内容、質疑応答内容などによる総合評価: 70%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
各種参考文献、論文、配布資料						
《授業外における学習方法》						
資料調査、資料作成						
《履修に当たっての留意点》						
昨今の医療職は全般的に発表を行う機会が増えており、情報共有から学術研究まで幅広いジャンルでプレゼンテーション能力が求められています。資料作成だけでなく、慣れない口頭発表や質疑応答の能力を伸ばす良い機会だと思って、チャレンジして下さい。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床工学技士がプレゼンテーションを行う意義を知る。		配付資料	事前に他授業で用いた教科書や作成した資料を復習
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション。プレゼンテーションの意義について説明を行う。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的や聴講者に応じたプレゼンテーションについて説明できる。		配付資料	事前に他授業で用いた教科書や作成した資料を復習
		各コマにおける授業予定	医療機器に関する情報共有のためのプレゼンテーションと学術的な医学研究に関するプレゼンテーションについて説明を行う。			
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	計画力・立案力を得る。		PMDA関係資料 各専門分野の教科書	興味がある医療機器、それらを用いた治療に関する情報収集
		各コマにおける授業予定	これまでの相談内容を元に、研究計画の立案を行う。また研究課題に関する現状調査を行う。			
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	考えをまとめ、理解力の向上を得る。基本的なプレゼン技術の知識を得る。		配付資料	医療機器や治療に関する情報収集、資料作成に用いるPCの準備
		各コマにおける授業予定	プレゼン指導。パワーポイントによる発表資料の作成を行う。			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	学んだプレゼン技術の応用力を身に付ける。		配付資料	医療機器や治療に関する情報収集、資料作成に用いるPCの準備
		各コマにおける授業予定	プレゼン指導。パワーポイントによる発表資料の作成を行う。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	発表資料	自分の資料を熟読、適切な聴講マナーの復習、質疑応答の準備
	各コマにおける授業予定	プレゼンの経験を得ると同時に、短時間での理解力を得る。 作成資料を用いた発表を行うと同時に、聴講マナーを守り、質疑応答を実践する。		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	PMDA関係資料 各専門分野の教科書	自分の資料を熟読、適切な聴講マナーの復習、質疑応答の準備
	各コマにおける授業予定	聴講マナーを身に付ける。 作成資料を用いた発表を行うと同時に、聴講マナーを守り、質疑応答を実践する。		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	PMDA関係資料 各専門分野の教科書	自分の資料を熟読、適切な聴講マナーの復習、質疑応答の準備
	各コマにおける授業予定	質疑応答に必要な探求力と関連知識の引用能力を得る。 作成資料を用いた発表を行うと同時に、聴講マナーを守り、質疑応答を実践する。		